

学校教育目標	<p>【めざす学校像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもと教師が輝く学校 ○確かな学びを保障する学校 <p>【めざす児童像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★たのしくまなぶ子ども (自ら学ぶ) ★すすんでつながる子ども (豊かな心) ★ひとのためにうごく子ども (たくましく生きる)【めざす学校像】 	学校経営方針	<p>本校は、法令や学習指導要領の趣旨を受け、県・市の教育方針に則り、地域や児童の実態及び教育の今日的課題と保護者や地域の願いを踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる確かな学力・豊かな人間性・健康と体力を持つ児童の育成に努める。そのため、全教職員は、その使命と責任を自覚し、家庭・地域と連携し、学校が担う教育的役割を十分に果たし、日々の実践に真摯に努める。</p>
自校の現状	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちは、大変素直で明るい学校生活を送っている。 ○家庭・地域の協力体制は整っており、行事等への参加も多い。 ●心のこもったあいさつや時と場に応じた人権意識のある言葉遣いの指導が求められる。 ●「よいこと貯金」に取り組み、児童の主体性を高めている。 ●生活習慣が乱れがちな児童が数名おり、保護者と連携した児童への啓発が必要。 ●特別な支援を要する児童へのチームとしての対応が求められる。 	重点努力目標	<ul style="list-style-type: none"> ○読書タイムの充実と活字に親しむ時間の拡張 ○「めあて」と「まとめ」が心に響く授業の実施 ○個別最適化の授業(タブレットは文房具) ○読書習慣の定着と学校図書館の利活用 ○対話的な授業の深化 ○児童会活動と連動したあいさつ運動の重点化 ○全職員で全児童を育てる…情報共有による校内支援体制の確立 ○全員遊び及び縦割り活動の実施 ○食育を柱とした生活科・総合的な学習の充実 ○早寝・早起き・朝ごはんの取組 ○よいこと貯金の奨励 ○家庭教育の充実

領域	重点度	番号	評価項目(努力事項)	達成度	自己評価		学校関係者評価	
					成果又は課題	評価	意見・助言等	評価
学校教育活動の改善と充実	★	①	学校は、一人一人の子どもの特性に応じた支援を工夫しながら、わかりやすい授業を展開している。	◎	【肯定的評価平均98.1%(R6.7月より↑0.1)】支え合う学級経営を基本として、全学級の授業の開き合いにより、児童の特性を踏まえた深め合う授業づくりに関して研鑽を深めることができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ①全学級の授業を見せ合うのはよいことなのでお互いに磨き合うことをこれからも続けてほしい。 ④活字に親しませることは大切。読書の活動はこのまま充実させてほしい。 ⑤自主的に学習する子どもを育てるのは大切。学習は楽しくないといけなないので、習慣として学習することとやる気を育てる部分両方を大切にしてほしい。 ⑥食に関する学習を柱にすれば子どもたちの学ぶ材料がたくさんでくると感じる。米の栽培の延長で子どもたち自身でご飯を炊いておにぎりにして食べるという試みはどうだろうか。栽培から食するところまで関連させたら更に意欲的に取り組むのではないか。麦ふみの作業も子どもたちは喜んで取り組みそう。「食」は生活の「生きるエネルギー」なので学習とセットになっていけばより楽しそう。食を柱とした取組は続けられたらどうだろうか。 ⑥グランドゴルフでの交流が実施され、地域との交流学習が増えてきている。例えば老人会とのグランドゴルフのあと一緒に餅つきをする活動はどうか。 ⑥コロナ前は老人クラブでグランドゴルフ、もちつき、七夕かざりつけなど、一緒にやっていた。今年は鬼火たきを実施した。 	B
	★	②	学校は、学習規律の定着を図りながら、日常の授業における主体的・対話的で深い学びを実現している。	◎	【肯定的評価平均94.1%(↑0.3)】職員同士の相談の機会が増え、課題であった学習規律の定着に改善が見られた。特に、児童の主体的に授業に参加する意識が向上したと考えられる。			
		③	学校は、学力向上に向けた工夫ある取組(PDCAサイクル)を実践している。	○	【肯定的評価平均90.0%(↓0.9)】校内研修で学力調査分析による授業改善を図っており、言葉に着目し読解力を高めながら考えさせる授業の実践が多く見られた。			
		④	学校は、読書に親しむ対策を充実させている。	○	【肯定的評価平均90.4%(↑0.9)】図書担当を中心として、児童が図書室に向かい、多くの本と触れ合う機会を増やした。黙って活字を読む時間が増え、自分の目と頭で理解する機会が増えた。			
	★	⑤	学校は、保護者と連携し、児童の家庭学習の習慣づくりの対策を充実させている。	△	【肯定的評価平均81.5%(↓6.2)】家庭学習に関する保護者の評価は62%と低い。学習は自分のためにするものという意識づけを今後も子どもたちに考えさせていく必要がある。			
	★	⑥	学校は、食育を柱としたカリキュラムマネジメントや特別活動の内容を工夫しながら、児童の主体性を引き出す、より効果的な教育活動を展開しているか。	◎	【肯定的評価平均93.7%(↓6.3)】学習発表会での食に関する学習の発表や食に関する地域交流(大正マルシェ)の実践により、食を柱としたふさと学習を充実させることができた。			
安全・安心な学校づくりの推進		①	学校は、道徳教育を推進し、いじめ根絶を図っているか。(豊かな心の育成といじめ見逃しゼロ)	◎	【肯定的評価平均92.8%(↓3.8)】2学期のいじめ認知件数は1件。人権を軽視する事案が起こっている。人権の大切さやお互いが尊重し合う集団づくりを今後も推進していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ①⑤いじめゼロを目指しているが、子ども同士の小さいトラブルがある。言葉によるトラブルが多いので今後さらに、ふわふわ言葉を言う子どもを増やしてほしい。 ②あいさつは評価が上がっている。地域・家庭・学校で大人が挨拶を意識させながら上手にできている子どもを褒めることをやっていきたい。 ②群読で声を出し、一日をスタートさせるという取組もよいのではないだろうか。 ③古部地区の通学路は国道沿いの歩道を歩いているが、多くの車が通るので車との接触などで、いつも危険だと感じる。中道を使って通学というのはできないか。⇒人が殆どいない場所を通ることになるのでかえって危険だろう。今のままがよいだろう。 ④生活習慣はメディア漬けのデメリットを子どもたちが自覚できたらいと思う。家庭学習でタブレットを使う機会も増えるが子ども自身の判断力が必要になるので、自覚をさせて使わせるべきだろう。 	B
	★	②	児童は学校や地域で心のこもったあいさつができてきているか。	○	【肯定的評価平均92.9%(↑7.5)】児童会によるあいさつ運動、あいさつ名人の紹介など、よくできている児童にスポットを当てた取組に効果があった。			
		③	学校は家庭と連携し、児童の命を第一に考えた指導を行っているか。	◎	【肯定的評価平均94.3%(↓0.9)】集団登校の見守り活動は継続して行っている。班によっては危険な歩き方をしている班もあり、班ごとの具体的な指導が必要である。			
	★	④	学校と家庭は相互連携し、「雲仙市統一ルール」の定着とよい生活習慣づくりを図っているか。	△	【肯定的評価平均83.2%(↓1.4)】統一ルールに関する保護者の達成評価が71.8で1学期より約10ポイントアップしたが全体の評価は下がった。			
	★	⑤	学校は家庭と連携し、「ふわふわ言葉」を使う人権意識の高い児童の育成に努めているか。	△	【肯定的評価平均72.5%(↓10.1)】縦割り班活動が増え、学年の交流も増えてきたが相手を大切に言葉遣いは増えておらず、言葉による友達とのトラブルが多い。			
	★	⑥	学校は、人のために動く児童を育成しているか。	◎	【肯定的評価平均97.2%(↑2.6)】職員は常に子どもの善行を認め情報共有している。特に集会等でのマナーある行動や勇気ある発言を意図的に褒め、児童のやる気を引き出すことはできている。			
働き方改革の推進	★	①	教職員は校務の効率化を図り、児童としっかりと向き合う指導や教育活動を行っているか。	◎	【肯定的評価平均97.9%(↑3.4)】業務の効率化の動きは高まっている。今後も業務内容の精選を行っていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ①先生方の時間的な余裕はどうか。⇒放課後の時間をできるだけ捻出する工夫をしているが、まだまだ授業の教材研究を行うための時間を増やしたいところである。 ①午前中5校時授業という学校もあるが大正小はどうか。⇒大正小は従来通りの午前中4コマ。授業時数の削減も可能なので今後日課の見直しを検討していきたい。 ②「働きがいを感じる職場」の項目で100%は素晴らしい。先生方がお互いを思いやり、助け合う意識が高いのは嬉しい。 ④昨年度の150周年記念行事や食育を柱とした地域連携は今後更に進めてほしい。 ⑤おやじの会復活でお父さん方の結束が強まった。今後も相互理解を深めて、みんなで育てるPTA活動を推進してほしい。 	A
	★	②	報連相を実践しながらチームで対応する、働きがいを感じる職場となっているか。	◎	【肯定的評価平均100%(同じ)】常に職員室で情報交換し、相談内容によって対応を協議し、チームによる早めの対応を図っている。			
		③	教職員の勤務時間管理の徹底(適正な勤務時間管理、年次休暇取得促進)	◎	【4~7月45時間超え:0名】45時間超勤者は0人であった。ノー残業デーを週1回設定し、18時15分退庁を意識した働き方のできる職員が増えた。			
	★	④	学校は地域と連携し、ふるさとの魅力を体験する探究的な学習を積極的に行っている。(学校・家庭・地域の連携強化)	◎	【肯定的評価平均98.9%(↑2.4)】学習発表会と大正マルシェに向けて地域との連携をこれまで以上に深めることができた。			
		⑤	教職員や保護者は地域活動やPTA活動に積極的に協力しているか。	◎	【肯定的評価平均97.9%(↓2.1)】数値は少々下がっているが授業参観・学級部会への参加率も高い。おやじの会の活動が復活し、コミュニケーションの場も増え、活動も更に充実してきた。			

※1 重点努力目標に関わる評価項目に★をつける。
 ※2 各評価項目の達成度を、指標をもとに、◎(十分に達成できた)、○(概ね達成できた)、△(あまり達成できなかった)、▲(全く達成できなかった)で評価する。
 ※3 各領域全体を、評価項目の達成度をもとに、A(十分に達成できた)、B(概ね達成できた)、C(あまり達成できなかった)、D(全く達成できなかった)で評価する。
 ※4 学校関係者評価として、A(十分に達成できている)、B(概ね達成できている)、C(あまり達成できていない)、D(全く達成できていない)で評価する。